

自治会を再建しよう!

法学部労働法ゼミアピール

法学部の学生諸君! 全市大の学生諸君!

現在のこの市大に学生自治の母体たる自治組織が存在しないということを実際に考えてみる必要があるのではないだろうか。自治会が存在しないということは一体何を意味するのであろうか。そのことはとりもたず我々学生の特権を奪り、学生としての生活を向上発展させるべき母体となるものが存在していないということを示しているのではないだろうか。自治会がなくとも生活できるのではないか。現に生活しているのではないか。自治会なんてなくてもあっても同じではないか。という人意見もあるであろう。しかし、その人意見も、もう一度自分の生活環境を振り返ってみる必要があるのではないだろうか。我々学生が学生としての生活を満足させるのに十分な保障が与えられているといえるのか。バイトをしなければ生活できない状況、クラスをするには金がいる。チャット勉強しようと思っても本を買うには金がいる。居メシを食べるにも長い朋をつくらなければならぬ。ゼミ討論、学生同士で議論するにも場所がない。……etc。たしかに以上のような状態のもとにおいて我々はその状態に我々を適応させて生きていく能力を備えている。金がある時にはバイトをし、長いこと並ぶのがいやならメシ屋に食いにいけばよいし、話をする場所、コンパをする場所がなければ喫茶店に行けばよいし、会場を借りればよい。etc。……。

しかし、本当にそれでよいのだろうか。その秋を考えた方が問題であり、危険であるといえるのではないだろうか。人間の遅延さ、可ばらしさは、歴史が示している。

うに、よりよい生活をめざし、自らの権利意識に目ざめ、その意識のもとにまわりの環境を状態をかえてゆくというところにあるのではないだろうか。またこれは、人間として当然の要求ではないだろうか。それは一人一人の力でどうも達成できない。一人一人が団結してはじめて大きな力になるのである。その団結の母体になるのが学生自治会ではないだろうか。その自治会が市大にはないのである。今すぐにクラス・ゼミで討論を開始、自治会再建の道へと歩み出すのが我々市大生に与えられた任務である。自治会のセクトの引きまわしを危惧する人もいよう。しかし、自治会はセクトのものではなく、我々学生一人一人のものである。だからこそ、セクトの引きまわしなどを許さずよいのは我々学生であり、我々個人個人が活発に意見を出し、我々の力で自治会を再建をしなければならぬと考える。(以上)

すべてのクラス・ゼミ
で討論をし、自治会
再建の運動を!

5/22